

三次市教育委員会教育長賞

失敗を受け入れる

三次市立甲奴中学校

第二学年 月橋 翔

「失敗を認め合え。」よく聞く言葉だが、意味をよく考えたことがなかった。私は、人の失敗をただ許す、という意味なのだと思っていた。

私は小学生のときに始めた野球を、今も続けている。中学一年生のときから試合に出してもらっていた。しかし、打てる時期と打てない時期があり、よい成績はあまり残せていなかった。そこで私は打てない理由を深く考えず、人や物のせいにしてしまっていた。そのままの調子で三年生が引退し、新チームになった。新チームになった最初は、勝利することがほとんどできなかった。その度に私は、愚痴のように勝てなかった理由を言っていた。すると、父が私に、

「失敗を認めないと成長できない。」

と言ってきた。私には意味が分からなかったが、適当に「うん。」とだけ言って返した。それから、その言葉の意味が分からないまま、野球の試合が本格的に増えていった。

ある試合のことだった。相手はこの地域ではかなり強いチームであり、僅差で負けていた。これ以上点を許してはいけな

い場面で、私の守るライトまでライナー性の打球が飛んできた。取れない球ではなかったが、私はミスをしてしまい、点を失ってしまった。そこで私はチームメイトに怒られると思った。しかし、みんなは「しょうがない」「俺が打ってやるよ」「次、気をつければ大丈夫」と、私を励ましてくれた。その時、「失敗を認める」ということの意味が分かった。「相手の失敗を許すだけではなく、元気づける。」そして、「誰かが失敗した分、自分が助けてあげる」ということなのだ。私はみんなに比べてなんと心の狭いことかと、自分を恥じた。

それからは、そのことを意識して野球をした。それでも私の不調は止まらなかった。そこで私は相手だけでなく、自分の失敗を認めようと思い、父と母が毎回記録してくれていた、打てた動画と打てなかった動画を何度も見返した。自分のバッティングを見つげ出せるよう、どうすれば打率と飛距離を伸ばすことができるのか考え続けた。そして、見つけ出した自分の形を定着させるために、毎日欠かさずにバッティングをした。

その努力のかけがあり、打率はグングンと上がっていった。なぜ今まで私は、自分の打ち方を変えるという選択をしなかったのか。私は恐れていたのだと思う。これ以上、調子を崩してしまつたらどうしようかと。しかし、今の私は変化を恐れない。なぜなら、変えたことで失敗したとしても、また新しく考えたり元に戻したりすればいいという考えになったからだ。そうすれば、どのようにすれば良いのか悪いのが分かるからだ。同じ打ち方をしている、いつかは打てなくなる。そうなったときは今までの失敗を生かしてまた考えればいい。失敗をそのままにしておくともた同じことを繰り返してしまう。繰り返さないためにも、それを受け入れることが大切だと思う。

これから、私はたくさん失敗や挫折をしようかもしれない。しかし私はその度に人や自分の失敗を受け入れ、自分に何が

できるのかを考えようと思う。高校でも野球は続けるつもりだ。
後悔をしないように生きていきたい。